Think Safety

- 交通機関というものは人命を尊ぶものである
- 白熱電球より明るいハロゲンヘッドライト
- Honda SENSINGのオートハイビーム
- Hondaドライビングスクール体験+Honda SENSING体感試乗会
- デフロスター、デフォッガーを活用しよう

2019 Autumn #6

本田宗一郎の言葉

「交通機関というものは人命を尊ぶものである」

創業者
本田宗一郎

事故に遭わない社会を目指す

交通戦争。そんな言葉が飛び交った1960年代。「交通安全」という概念が普及する以前からホンダは安全運転の普及に取り組んできた。事故に遭わない社会を目指すための積極的な取り組みは、現在に至るまで続いている。

目指しているのは、ドライバーやライダーだけでなく、歩行者や自転車の利用者など、道を使う誰もが安全でいられる「事故に遭わない社会」の実現だ。ホンダの安全への取り組みは、安全運転の概念がなかった1960年代までさかのぼる。自動車メーカーとしては初の試みとなる安全運転普及活動を1970年にスタート。その後は運転席用のエアバッグシステム、自分だけでなく相手を含めた共存安全の考え方に基づく「コンパティビリティ対応ボディ」、さらに、衝突による歩行者へのダメージを分析するために世界初の「歩行者ダミー」を開発。このダミーを使い、クルマと歩行者が衝突したときの体の動きを1/1000秒単位で追い、人体のどの部分がどのようにダメージを受けるのかを解析し、その結果をもとに、歩行者を保護するための技術開発が行われている。

2000年には、世界初の「屋内全天候型 全方位衝突実験施設」を完成させ、リアルワールドでの現実の事故形態に即した衝突テストを実施するなど、安全技術のさらなる向上に対する取り組みを実施している。こうしたテスト環境の中で生み出された安全技術を積極的に市販車両に搭載するのはもちろん、歩行者ダミーをほかの研究機関に貸し出すなど、安全への取り組みに対する研究にも貢献している。

交通安全への取り組みは、日本国内だけにとどまらず、海外へも拡大している。1972年には海外安全運転普及推進委員会を設置。翌1973年には、日本から韓国へインストラクターを派遣し、現地での指導者養成が行われ、本格的な普及活動が始まった。現在では、販売店店頭でのお客様向けの安全アドバイスなど、ホンダの活動の基本である「人から人への手渡しの安全」を中心に、海外事業所が主体となって、各国の交通状況に応じた様々な活動を行っており、その数は38か国に及んでいる。シンガポール、タイ、ベトナムでは設立した教育施設で免許取得のためのトレーニングも実施するなど、政府関係機関との連携・協力体制も築いてきた。ホンダの「事故に遭わない社会」を目指す取り組みは、日本のみならず世界で続けられている。

ホンダベトナム交通教育センター

夜間の視認性を向上

白熱電球より明るいハロゲンヘッドライト

「遠くまで明るく」が進化のキーワード

夜間走行を支えてくれるヘッドライトは、暗い道路での視認性を向上して〝安全運転〟に一役買っている装置のひとつ。「遠くまで明るく」。このキーワードは進化に至る主軸となっているのだ。

安全な夜間走行に欠かすことができないヘッドライト。その歴史を辿ると、創成期にはアセチレンランプや白熱電球がその役を担ってきた。しかし、寿命の短さや光量不足といった弱点を克服したハロゲンライトの登場によって、ヘッドライトの視認性は飛躍的に向上。現在に至るまで広く普及して、夜間運転の安全性に寄与し続けている。

Hondaにおけるハロゲンヘッドライト初搭載車種となったシビック

2020年4月に迫った「オートライト」の義務化に加え、ドライバーの交通安全に対する意識がより高まってきたいま、交通事故を未然に防ぐ予防安全の観点からもさらに明るく視認性に優れたヘッドライトのニーズが高まる一方だ。開発現場においても積極的に研究開発が行われているカテゴリーで、現在はハロゲンライトよりもさらに明るく長寿命のLEDライトをはじめ、ステアリング舵角に連動して、ヘッドライトが進行方向を照らし、カーブや交差点での明るい視界を確保するためのAFS（Adaptive Front Lighting System）も登場。ただ明るさを求めるだけでなく、クルマが進むべき方向の視認性をより高めるといったアプローチでドライバーはもちろん、歩行者や他車の安全にも配慮したシステムが普及しつつあるのだ。

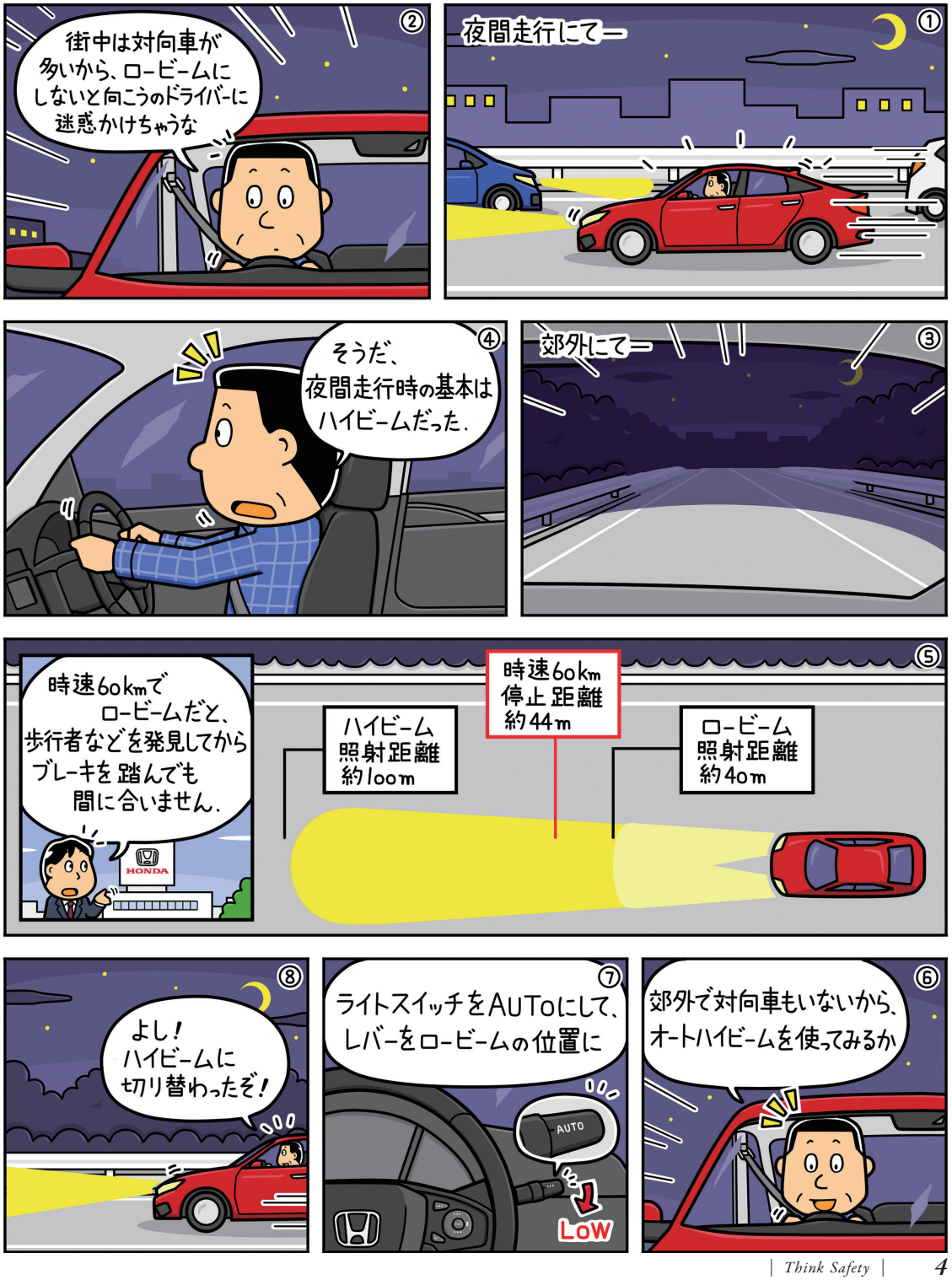
さらにホンダでは、センサーとカメラで検知した情報をもとに安心・快適な運転や事故回避をサポートする「HondaSENSING」に「オートハイビーム」機能を実装。夜間走行時、街灯などがなく、暗い道を走行している時は自動的にハイビームに。また、前走車や対向車を検知すると自動的にロービームに切り替えてくれる。特別な操作は一切不要で、ライトスイッチを「AUTO」にしてレバーをロービームの位置にするだけだ。ドライバーの負担が軽減され、夜間走行における視認性が向上されることで安全運転につながっていく。

オレンジの車体は、1.5Lのエンジンで85馬力を誇ったCXの専用色

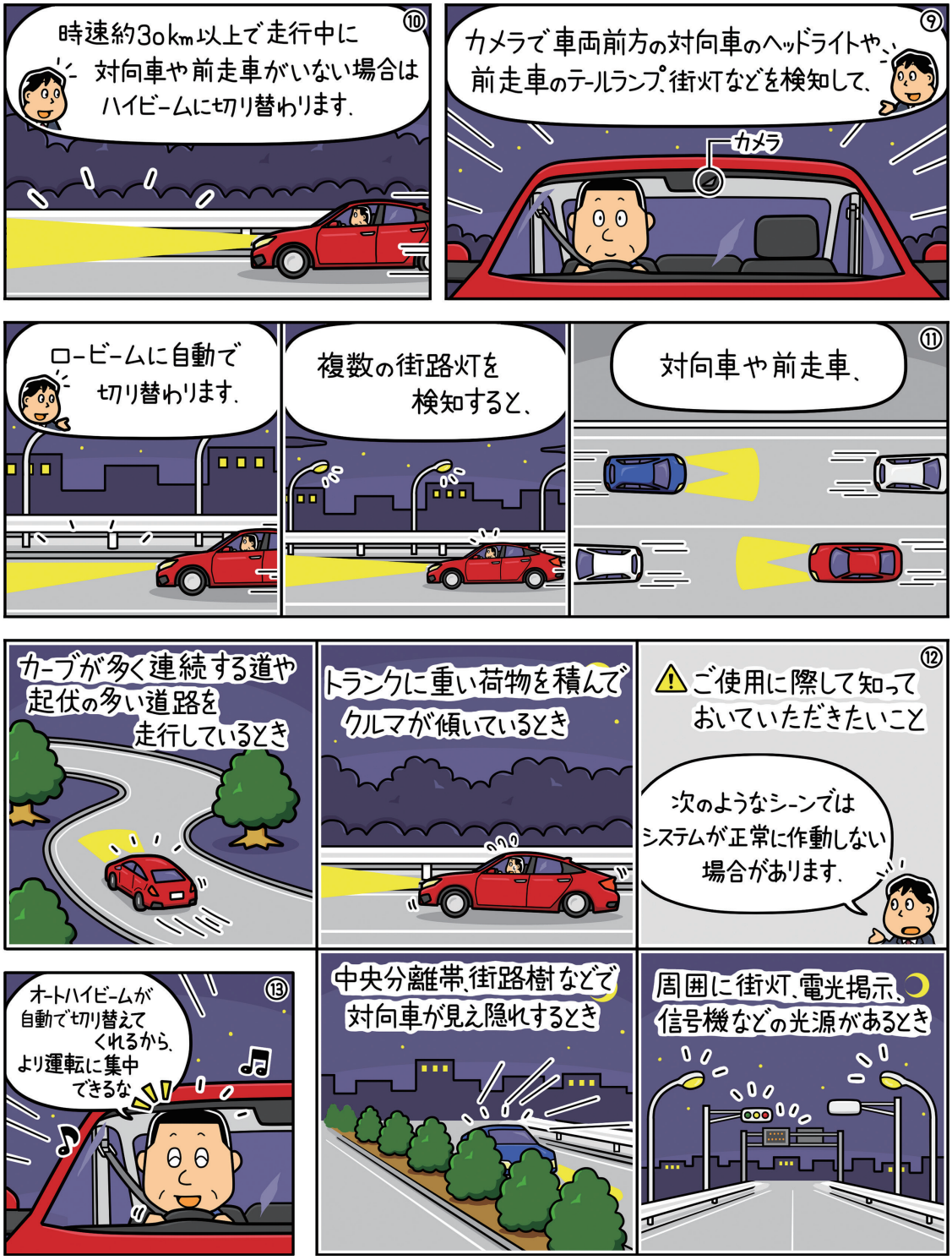
夜間走行時、ハイビームとロービームを自動切り替え

Honda SENSINGのオートハイビーム

夜間など暗い道をロービームで走行中、カメラで前方の状況を検知。街灯などがなくて暗い場合、見やすいように自動でハイビームに。前走車や対向車を検知すると、ロービームに切り替わります。



※ オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありあせん。あくまでも運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。



交通教育センターレインボー埼玉＆鈴鹿サーキット交通教育センター

Hondaドライビングスクール体験＋Honda SENSING体感試乗レポート

安全運転意識の向上と機能の正しい理解に向けて

6月15日に埼玉県の交通教育センターレインボー埼玉で、7月20日には鈴鹿サーキット交通教育センターで、「Hondaドライビングスクール」の体験と「Honda SENSING」の体感試乗ができる読者参加型のイベントが開催された。

6月15日の交通教育センターレインボー埼玉はあいにくの雨模様となったが、地元の埼玉を中心に千葉や群馬などから抽選で選ばれた読者8名にお越しいただき、イベントが行われた。始めに「Hondaドライビングスクール」のプログラムを受講。Hondaドライビングスクールは全国の交通教育センターで開催されていて、プロのインストラクターから基本的な運転技術や日常に活かせる安全運転を学ぶことができる。午前中は、運転姿勢や日常点検といったドライブをする前に必要な知識の確認から始まり、コースに移ると緊急ブレーキングや信号機を使った反応制動の実技が実施された。午後には、滑りやすい路面でのブレーキングやハンドル操作を練習し、危険を安全に回避する体験を行った。インストラクターからは「路面状況によって、時速15kmの差で障害物を避けられなくなります。速度を抑えることで、万が一の事態に対応できます」とアドバイスが送られた。その後、Honda SENSINGの体感試乗が行われる予定だったが、降り続ける雨のため中止に。代わりに、実車による検証映像を視聴して、道路や環境の違いによるシステムの作動状況を確認し、条件によってはシステムが作動しない場合があること、Honda SENSINGがドライバーの運転支援機能であることへの理解を深めていただいた。

7月20日に鈴鹿サーキット交通教育センターで行われたイベントには愛知、岐阜、京都、大阪、長野など幅広い地域から読者8名にお越しいただいた。まずは、埼玉と同様にHondaドライビングスクールのプログラムを受講。運転の基本と、道路や環境の変化に対応した運転の大切さを学んでいただいた。続いてHonda SENSINGの体感試乗が行われ、インストラクターが運転するクルマに同乗し「衝突軽減ブレーキ」と「誤発進抑制機能」を体験していただいた。システムが感知した時に鳴る警報音の大きさやブレーキの作動状況、エンジンの回転数を抑制する状況を体感。インストラクターからは、「Honda SENSINGの各機能の能力には限界があります。過信せずに安全運転をお願いします」という言葉とともに説明が行われた。

専用のターゲットを使ってHonda SENSINGの衝突軽減ブレーキを体感試乗（鈴鹿サーキット交通教育センター）

信号機を使った反応制動の実技。インストラクターが各参加者の停止距離を確認（交通教育センターレインボー埼玉）

体験をとおして納得していただく

交通教育センターレインボー埼玉に参加した須賀優さんからは「これまで受けてきた安全運転講習は、どちらかと言えば座学中心のものでした。座学で聞くのと実際に体験するのとでは、全然説得力が違いました」、難波佳晃さんからは「ABSの働きを体感できて勉強になりました。もっと幅広い人に体験しほしいと思います」と、Hondaドライビングスクール体験の感想が寄せられた。また鈴鹿サーキット交通教育センターに参加した大島千春さんからは「自分もHonda SENSINGが搭載されたクルマに乗っていますが、初めて作動するのを体感できました」、小川武俊さんからは「Honda SENSING が搭載されるクルマが増えることで、交通事故が一件でも減っていけば嬉しいです」と、Honda SENSING体感試乗の感想が寄せられた。

Honda SENSING 体感試乗とHondaドライビングスクール体験を組み合わせた初めての試みは、積極的にご参加いただいた読者のみなさんのお陰で、盛況のうちに幕を閉じた。全国7か所の交通教育センターでは幅広いスクールプログラムで参加体験型の実践教育を行っていて、豊富なノウハウで安全運転の知識や技術を楽しく学ぶことができるので、機会があればぜひご参加ください。

交通教育センターレインボー埼玉に参加者されたみなさんとインストラクター

鈴鹿サーキット交通教育センターに参加者されたみなさんとインストラクター

参加体験型の実践教育を行う　交通教育センター

全国7か所のHondaの交通教育センターでは、個人の運転スキルアップからオーダーメイド可能な企業ドライバーの運転研修まで幅広く実施。危険を安全に体験するなど、豊富なノウハウで安全運転の知識や技術を楽しく学ぶことができる。

アクティブセーフティトレーニングパーク
栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1
www.twinring.jp/astp/

交通教育センターレインボー 和光
埼玉県和光市下新倉5-27-1
www.rms.co.jp

交通教育センターレインボー 埼玉
埼玉県比企郡川島町出丸下郷53-1
www.tec-r.com

交通教育センターレインボー 浜名湖
静岡県浜松市北区細江町気賀5200-5
www.tec-r.com/hamanako/

鈴鹿サーキット交通教育センター
三重県鈴鹿市稲生町7992
www.suzukacircuit.jp/stec/

交通教育センターレインボー 福岡
福岡県粕屋郡新宮町美咲1-5-53
www.rmsf.jp

交通教育センターレインボー 熊本
熊本県菊池郡大津町大字平川1500
www.hsr.jp

冬のガラス曇りに注意

デフロスター、デフォッガーを活用しよう

気になるガラスの曇りを防止して安全運転につなげる

冬場の運転前や運転中にガラスが曇ってしまった……という経験は誰にでもあるはず。前方の視界を妨げられたままの運転は非常に危険を伴うため、「デフロスター」「デフォッガー」を活用して安全運転につなげよう。

ガラスを曇らせる主な原因は「結露」と呼ばれる現象だ。これは、空気中に含まれる水蒸気が急激な温度変化によって水滴となって現れるもの。自動車の場合は車内と車外の寒暖差が大きい冬場に多く起き、車内の湿度が高いほど発生しやすくなる。冬場に発生したガラスの曇りは、自動車に搭載される「デフロスター」と「デフォッガー」と呼ばれる装置を利用することで除去することが可能。フロントガラスの曇り除去は「デフロスター」、リアガラスは「デフォッガー」とそれぞれ独立した装置となっており、パワーモードがONのときにエアコンのコントロールパネルにある各ボタンで作動させることができる。少しでも曇りが気になったら早めに起動し、良好な視界を確保して安全運転を心がけて下さい。

デフロスターを作動するには「FRONT」、デフォッガーを作動するには「REAR」を押す

Honda 秋のセーフティキャンペーン

2019年9月16日(月・祝)～10月31日(木)

秋の全国交通安全運動<2019年9月21日(土)～30日(月)>に合わせ、9月16日(月・祝)～10月31日(木)の間、「Honda秋のセーフティキャンペーン」を実施します。

ホンダセーフティキャンペーン 検索

www.honda.co.jp/safetyinfo/topics/safety_campaign/

Think Safety 読者アンケート&プレゼント

各5名様に

1/43 CIVIC TYPE R 2015 スケールモデル

カラー：チャンピオンシップホワイト

Aston Martin Red Bull Racing 2019 レプリカ オフィシャル チームキャップ

サイズ：フリー

下記のウェブページにアクセスし、読者アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選でHondaグッズをプレゼントいたします。詳しくはホームページをご覧下さい。みなさまのご応募をお待ちしております。

締め切り：**2019年11月3日(日)**

当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。
ご応募はお一人1回に限ります。

Think Safety_Vol.6
発行日／2019年9月16日
発行／本田技研工業株式会社 安全運転普及本部
発行人／中嶋英彦
※ 本誌掲載の写真・図版・記事などの無断使用・転載・複製を禁じます

HONDA
The Power of Dreams